

絵画鑑賞のプロジェクション Projection of art viewing

石黒 千晶^{*1}
Chiaki Ishiguro

^{*1} 玉川大学脳科学研究所
Brain Science Institute of Tamagawa University #1

Although the process of art appreciation can be seen as one type of projection, there are little studies to examine the projection process. In this paper, we discuss how the projection process of art viewing promote viewers' aesthetic experience by introducing a study on art education for art viewing. The examines how educational interventions concerning art viewing affect students' behaviors in this regard and their evaluations of artworks. We focused on Visual Thinking Strategies (VTS), which is a typical intervention implemented in schools and museums and examined its educational effect by comparing it in this regard with another common intervention: lectures on art history. The results showed that the participants who were assigned to the VTS condition increased their length of time they spent viewing the art works, whereas the lecture interventions had no visible effect on any measurement.

1. 芸術鑑賞とプロジェクション

私たちは絵画や映画、小説などの芸術作品を介して様々な体験をする。芸術活動の中でも最もポピュラーな活動として、鑑賞が挙げられる。鑑賞は多くの人のにとって馴染み深い活動である。私たちは芸術鑑賞することで、単にオブジェクトを見ているときとは異なる体験をすることがある。多くの研究者が鑑賞による美的体験を説明する心理モデルを提案し[e.g., Leder 04; Bullot 13], それを実証する知見も膨大に蓄積されている。特に近年は鑑賞が単に作品の印象・解釈・評価を形成するだけでなく、鑑賞者の考えや将来の行動にも影響する可能性が指摘されている[Pelowski 16]。特に、現代アートが出現してからは、芸術鑑賞は作品そのものの知覚情報だけでなく、文脈や状況などが組み合わさって理解されるという考えが広まりつつある[Leder 04; Leder 14]。

このような複雑な鑑賞過程を理解する上で、プロジェクション科学は新しい視点を提供するかもしれない。プロジェクション科学の視点から見ると、鑑賞は外界で絵画などの視覚情報を得て、その情報をもとに表象を形成する過程だと考えられる。特に、鑑賞では単に作品が示しているオブジェクトやモチーフをそのまま知覚するだけでなく、鑑賞者の既存知識をもとに作品の美術史的な価値評価や個人にとっての意味づけが試みられる。つまり、鑑賞における投射は、ターゲットがソースとは異なる対象にまで広げられる異投射になる場合もあるのである。

このようにプロジェクション科学の投射の概念を利用することは鑑賞を通して得られる美的体験を理解する上での新しい視点が得られる。そのため、本発表では、鑑賞過程を単なる視覚情報の表象だけにとどまらない、新しい解釈や意味づけが構築される過程であると考え。

2. 鑑賞教育とプロジェクション

学校や美術館で行われる鑑賞教育では、鑑賞者の作品理解や解釈を広げるために様々な教育的介入が行われている。最も典型的な方法は美術史などの「レクチャー」である。レクチャーを通して、美術史的知識を教授することで、作品の背景や美術

史的価値を理解することができる。しかし、21世紀に入ってから、鑑賞教育の方法も変化してきた。従来はレクチャーで美術史の知識を一方的に教授する方法がポピュラーだった。しかし近年は、知識を与えずに鑑賞者が作品をじっくり観察したり、他の鑑賞者と意見交換することで作品への意味づけを深める方法も利用されるようになってきた。このように他者と対話しながら鑑賞する方法は「対話型鑑賞」と呼ばれる。この手法は、ファシリテーター(学芸員や教員等)が主に子どもの鑑賞者にオープンエンドな質問を投げかけ、それに対して鑑賞者が自由に答えるといった形で、対話をしながらグループで美術作品を見ていく鑑賞方法である。対話型鑑賞は、米国の認知心理学者アビゲイル・ハウゼンとニューヨーク近代美術館(MoMA)で教育部長をしていたフィリップ・ヤノウィンにより開発された VTS (Visual Thinking Strategies)がベースになっており、日本へは、1990年代、当時MoMAのエデュケーターだったアメリカ・アレナスによって紹介された。

「レクチャー」と「対話型鑑賞」の2つの鑑賞教育は、鑑賞者のプロジェクションを異なる方法で促しているといえる。まず、レクチャーは美術史的知識を教授することによって、鑑賞者に新しい視点で作品を解釈することを可能にする。そのため、作品の見たままの情報だけでなく、モチーフや筆跡などの作品特徴から作品の新しい一面を理解することができる。一方、「対話型鑑賞」は新しい知識や情報は一切与えないものの、他者の視点から作品を見ることを可能にするため、結果的に多様な視点で作品のプロジェクションを促しているといえる。

3. 鑑賞教育の効果測定

本研究では、「レクチャー」と「対話型鑑賞」を比較して、どちらの鑑賞方法にどのような教育効果が見られるかを検討する。これまでレクチャーや対話型鑑賞が学習者の鑑賞に与える影響は、学習者の感想文を質的に分析することで検証されてきた[Housen 87]。しかし、近年の鑑賞に関する心理学研究では、美術鑑賞過程には知識を利用した解釈過程のみならず、作品の視覚的情報を分析するための知覚的分析も含まれることが指摘されている[Leder 04]。実際に、近年の鑑賞教育に関する研究では、鑑賞者の解釈内容を示す

石黒千晶: 玉川大学脳科学研究所

住所: 194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1

Tel: 042-739-8111, e-mail: ishiguro.chiaki@lab.tamagawa.ac.jp

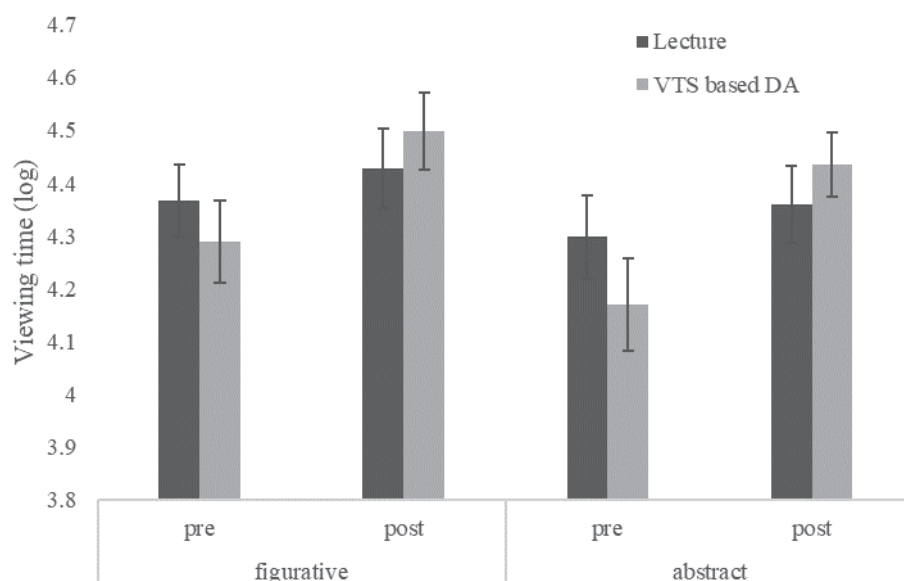


Figure 1. Viewing time (log)

感想文だけでなく、作品にどのように視線を向けていたかという知覚的分析過程も検証されつつある[Ishiguro 16]。そのため、本研究はレクチャーと対話型鑑賞の教育効果の違いを比較する上で、教育的介入前後の絵画鑑賞時の視線の違いを検討した。

4. 方法

大学生 43 名(男性 8 名, 年齢 $M = 19.42$, $SD = 1.10$) が実験に参加した。すべての学生はプレ・ポスト実験に参加し、そこでモニター上で 12 枚の絵画(具象画と抽象画各 6 枚)を鑑賞し、絵画鑑賞後に各作品の好き嫌いを評価した。学生の絵画鑑賞中の視線はアイトラッカー(Tobii X300)によって記録した。学生はレクチャー条件($n = 21$)と対話型鑑賞条件($n = 22$)にランダムに割り当てられ、プレ・ポストの間 3 回レクチャー、あるいは、対話型鑑賞の授業を受けた。

5. 結果と考察

各条件の絵画鑑賞時の視線を分析した結果、対話型条件においてのみ絵画鑑賞時間がプレ・ポストで増加することがわかった(Figure 1)。一方、絵画鑑賞中の眼球運動(e.g., fixation, saccade, scanpath)や作品の選好はいずれの条件でも変化しないことがわかった。

以上の結果から、レクチャーと対話型鑑賞が絵画鑑賞中の視線に与える影響を検討した結果、対話型鑑賞は鑑賞者の鑑賞時間を促進することがわかった。この結果は対話型鑑賞が、鑑賞者が作品と向き合う態度を養う教育方法である可能性を示唆している。

6. 結論

本研究では、プロジェクションを異なる方法で促すと考えられる鑑賞教育実践を実施し、その教育効果を比較した。その結果、対話型鑑賞が鑑賞者の鑑賞時間を促すことがわかった。しかし、作品評価についてはどちらの教育手法でも教育効果は見られなかった。この知見は、プロジェクションという観点から芸術鑑賞

や鑑賞教育を理解するリソースとして重要である。今後は、鑑賞教育のより詳細な手続きと鑑賞者の内部で行われるプロジェクションの関係を検討する必要がある。

参考文献

- [Bullot 13] Bullot NJ, Reber R. The artful mind meets art history: toward a psycho-historical framework for the science of art appreciation. *Behav Brain Sci.* 2013; 36(2): 123-137.
- [Housen 87] Housen, A. Three methods for understanding museum audiences. *Museum Studies Journal*, 2(4), 41-49. 1987.
- [Ishiguro 16] Ishiguro, C., Yokosawa, K. & Okada, T. Eye movements during art appreciation by students taking a photo creation course. *Frontiers in Psychology*, 7, 1074. 2016. doi: 10.3389/fpsyg.2016.01074
- [Leder 14] Leder, H., & Nadal, M. Ten years of a model of aesthetic appreciation and aesthetic judgments: The aesthetic episode—developments and challenges in empirical aesthetics. *British Journal of Psychology*, 105(4), 443-464. 2014. doi: 10.1111/bjop.12084.
- [Leder 04] Leder, H., Belke, B., Oeberst, A., & Augustin, D. A model of aesthetic appreciation and aesthetic judgments. *British Journal of Psychology*, 95(4), 489-508. 2004. doi: 10.1348/0007126042369811
- [Pelowski 14] Pelowski M, Liu T, Palacios V, Akiba F. When a body meets a body: an exploration of the negative impact of social interactions on museum experiences of art. *Int J Educ Arts.* 2014; 15(14): n14.